

# 私の保育



榎野 弘子

大学を卒業して二十余年、私立保育園、共同保育所を経て、現在は横浜市の私立幼稚園に勤めています。この幼稚園は園庭が広く、その上自然の森が続いていて自由に森で遊べます。また山羊が居て、赤ちゃんが生まれたります。その他にも孔雀、兎、モルモット、ちゃぼ等、動物がたくさん居ます。

また、子ども達で畑を耕して、キュウリや赤かぶや苺や大根を植えています。このような自然に恵まれた園な

ので、子ども達はその時期時期に、木苺やいちぢくやさくろやぶどうや栗やあけび等をもいで食べ、虫とりに夢中になります。

今受け持っているのは四歳児ですが、毎朝「今日は一体どんなことが起こるかな」と期待をもって子どもを迎えます。長くこの仕事をすればする程、子どもの素晴しさがわかってきました。子どもはどんな遊びをしていても学習しています。幼児にとって遊びながら学習してい

くことがどんなに大切なことか、ますますわかつてきたこの頃です。子どもの遊んでいる様子をみてしていると遊びを通して成長しているんだな―としみじみ思います。こんな子どもの素晴らしい様子が実感として感じられる場面を、私の日誌から拾ってみます。

小さい家庭用のビニールプールを寄付していただきました。空気を入れてふくらまし、部屋に置きました。それをみてたかひる君が「ミンナハイレナイ」（クラスは三十二人居ます）と言いました。更に、ちえこ「タクサン集メナイトダメ」　たくや「ソレナラ簡単、ミンナガ少シズツアッ入レレバ」ちえこ「ミンナハイレナイ。ジュンバンコニスレバイイ」　外にある園用の大きいプールと大きさ比べをしたり、小さいプールでみんながはいれるにはどうしたらいいか、真剣に考えています。

長い夏休みが終って二学期が始まりました。夏休み前にはまだほんの小さい実だったいちぢくが大きくなり、ぱっくり口をあけているのをみつけたあい子ちゃん「イ

チヂク、夏休ミスンダカラ、食ベラレルヨウニナツタンダ、ミンナガ食ベラレルヨウニ」　もちろんその日、クラスみんなであい子ちゃんのみつけたいちぢくをもう一度食べました。

やはり園庭にある栗も少し色づいて、いがが割れてきました。よしのり君がいがを落とそうと棒でつついていきます。教師「まだ青いわよ」　よしのり「チョット青クテモ大丈夫、割レテルヨ」教師「大変、割れたのは中の栗が全部落ちてくるわよ」よしのり「落ッコチナイヨ、大丈夫、一杯開イテモ大丈夫」なんと三十分以上もかかって栗一個を落としたよしのり君、その栗を教師にみせるなり、「疲レタ」としやがみこんでしまいました。よしのり君の方が、教師よりも余程栗のことを知っています。

部屋にはスイッチが二つあって、電気をつけたり消したりして遊びます。その日は両方とも消してあり、部屋が薄暗くなっていました。それに不満なさとする君「電気

ツケタイヨ」と二つともスイッチをつけました。こう君がさかさず消します。さとする「暗イトイヤナノ」たかひろ「オバケゴッコシテルカラ、太陽（電気を太陽にみたてている）ニアタルダメダモン」しばらくしてたかひろ「コケコッコウ、朝デスヨ」とつける。さとする「モウズウツツケテルヨ」こう「オレ達ユーレーダ」と消す。今にも泣き出しそうなさとする君。が、たかひろ君がさとする君の居る方の電気だけつけ、自分達の遊んでいる方は消し、これで解決しました。

園庭から続いて森があります。その森にはあけびや栗やどんぐりがなり、木登りもでき、子ども達の大好きな遊び場です。その森でお弁当を食べた時のことです。

ひかる「アッチ（森の木が繁っている方）向イテルト（向いてお弁当を食べると）タヌキヤキツネガ来タラドウスル？」

みゆき「居ナイヨ」  
こう「スゴイ森ノ中ジャンイト居ナイヨ」

ひかる君は夢一杯、いつも面白いことを言う子で、幼

稚園の森にたぬきやきつねが本当に居ると信じているようです。

ささえの貝殻をみせた時のことです。

りえ「ウワーキレイ、中キレイ、ズワーッと耳ニアテテイヨウ、髪ノ毛ノ音カモシレナイヨ」

けいこも耳にあて「海ノ声ガスル」次々耳にあてて、あい「ザンブリコッテ言ッテル」せりか「ザンブリコッテ言ッテルンジャンナイヨ、ザザーザザーッテ言ッテルンダヨ」としのぶ「海ノ音ンタ」けいこ「キレイ、コノ中ナンカ光ッテ」いつ迄も耳にあてたり、ながめたりしていました。

近所の小学校で運動会をしているというのでみに行きました。小学生の踊りが終わった時、さとする君「風モ踊ッテル。アレ、踊ッテル。木モ（踊ッテル）アソコモ」たくや「アレ（万国旗を指さして）モダ」

部屋には空箱やプラスチックや発泡スチロールの容器

や紙やひもやセロテープ、ホッチキス、ガムテープ、パンチ等を、いつでも使えるように置いてあります。それで自由に描いたり作ったりします。ちえ子は楽器（マラカス）を二つ作りしました。材料が違うので、「コッチがコンナ音、コッチは違ウ」と音を比べていました。えり子も傍で同じような物を作っています。できあがったえり子の楽器の音をきいて、「コレ同じ音」とちえ子は自分の作った一つの楽器を鳴らしました。

また違う日よしのり君が二つマラカスを作りました。二つを別々に振って「違ウデショ、チッチャイ丸イ石ト大キイ石」一つには小さい丸い石を入れ、もう一つには大きい石を入れたというわけです。こうして音の違いを発見していました。

数日後、まいこ「楽器ツクッテルノ」とフィルム丸の円筒形の容器にセロテープを丸めたのを入れふっつていました。このように次々と子ども考えた楽器が作られています。クラスの友達と歌に合わせて演奏されていきます。

楽しい運動会はいい天気恵まれ、無事終了しました。

その翌々日には途中から雨が降ってきました。それをみたあい子ちゃん「運動会終ッテツマンナイヨッテ雨降ッタンダ」あい子ちゃんにとってはそんなに運動会が楽しかったのでしょうか。

「三匹の山羊のらがらどん」の劇ごっこをした時のこと、配役をきめた時、一番小さい山羊を二人で演じることになりました。と「山羊ハ四本アシダカライイ」二人で演じるとあしが四本だからいいという意味です。

クラス三十二人が五つのグループをつくっています。そのグループには子ども達がつけた名前がそれぞれついています。お弁当を食べながら、あい「アイチャン、森グループにナリタイ（グループの名前を森にしたい）ダッテ森ニハイッバイイモノガアルモン」 あいちゃん森が大好きなことがよくわかりました。

幼稚園には春夏秋冬とも居るといふ話。

たかひろ「ヒマワリ（組）ニナツ子チャン。レンジ（組）

ノアキ子チャン。バラ（組）ノワタル君、ミンナ居ル  
しんた「年長デ居ルヨ、ミツハル」

自分のクラス（れんげ組）だけでなく、他のクラスとも様々なかたちで交流をもってきたことがこんな発言にあらわれているなど、うれしくなりました。

お祭で使った大きな和太鼓を園庭に置いてあります。子ども達はたたきたい時にいつでもたたけます。最初は二本のばちでたたきただけだったので音が音の違いに気づいたようです。さとの君は一本のばちを太鼓に押しつけてたたき「音が違ウ」と発見しました。友達に「ココ押サエテ」と手のひらで押さえさせてたたく。「モット力入レテ」と力を入れて押さえると音が変わることも気づきました。たたく方の反対側を押さえても音が違うことにも気づきました。一方をたたくと反対側もふるえるのを「コッチカラタタクト（反対側で）キコエタ」と言っていました。

畑で育てた野菜を使ったりしてよくお料理をします。

この日は園で一番小さい三歳児のクラスがシチューをつくり「まだ残っているかられんげ組にもあげる」ということでした。お弁当を食べ終わった子から自分のコップを持ってもらいに行きました。帰ってきた子ども達は「早く行カナイト食ベラレナイヨ」「アト少シシカナクナッタヨ」「レンゲ組ミンナ足リナイヨ」「モウホンノチョッピリシカナイヨ」「モウスッゴイ少シシカナイ」と眼をまん丸にして口々に少ししか残っていないことをクラスみんなに話します。と私のコップにだまって自分のシチューの半分を入れてくれた子が居ます。けい子ちゃんです。けい子ちゃんはだまってこのようなことをする子です。

竹の棒を持ったせりかちゃんが「コッチ白砂入レタ」と竹の端の一節に砂を入れ、ひっくり返しました。砂はザーンとこぼれます。「あら、どうして砂が出てくるの？」ときくと「ココ（節の所）（砂が）通レナイヨウニシテアル」とのこと、竹には節があることを発見したようです。

動物ごっこは大好きな遊びです。子ども達のかばんをかけるロッカーの上部にはひきだしが二つついています。このひきだしをぬいて子どもがロッカーの中に立つと顔が出るので格好のおりになります。「ココハヒ熊ノ赤チャンノオリ」ところ君、「ボクハライオン」「兎」「ダメデスヨ(ライオンに)ウサチャンノトコ行ッタラ」など言いながら大きい箱積木で別のおりをつくり、何日も何日も、動物ごっこは続いています。

クリスマス会にサンタクロースが来てくれ、みんな大喜び。見送ったあと、園庭に出てその跡やサンタクロースの足跡をみつめました。

「サンタクロースオモシロカッタネ」

「トナカイミタカッタ」

「(サンタの足跡は)コレカナ」

「(トナカイは)空デ飛ンデ待ッテタノカナ」

白い物をみつけ「雲ガツイテル」

「行ッチャッタネ」

「ココニモチョビット(そりの跡がある)」

「ココモアシアト」

「ニオイスル ケーキノニオイスル」(サンタクロースさんがケーキを持ってきてくれたので)

「空ニ線ガアルノハサンタクロースノソリノアトジャナイ」

「引ッパールヤツノ足跡カモシレナイ」

「(深く掘れた所を)トナカイ力入レテグリーンッテナッタノカナ」

「(木の皮がむけた部分を見つければ)トナカイガマチガエテグリーンッテナッタノカナ」

「サンタノ足跡」「絶対だ」

「イッパイトナカイノ足跡ガ、サンタノ足跡アッタヨ」

「(鎖の切れ端が木につながれているのをみつけ)アノソリ、ココニツナイダノカナ」と森の中迄探しに行きました。再び砂場の近くに帰ってくると

「オ砂場ニ足跡アッタ、ココニモ」

「山羊ノ隣、前ニハ大キイ穴ボコナカッタノニアッタ」

「アー、サンタサンオモシロカッタ」と心からサンタさ

んを楽しみました。

ここに拾った場面は全て自由な場面での子ども達の姿です。私はこの頃、このような自由な場面での子ども達の生活を知ることがますます大切だなど思うようになりました。教師は子どものありのままの姿をしっかりと知って保育をしていくことが大切です。

まさあき君が紙を何回も重ねて折って切り、広げて面白い模様をつくりました。それをみてよしのり君「ドウヤツクッタノ？」まさあき君は紙をよしのり君に渡し「コウヤツテ折リナ」よしのり君、まさあき君と同じように折る。まさあき「キチント折ラナキャダメダヨ」私はこの場面をみてびっくりしました。よしのり君は五月生まれ、まさあき君は二月生まれで今迄はよしのり君が、いつもリードして遊んでいたからです。

また、まさあき君がよしのり君に紙の模様を教えることからヒントを得て、羽子板づくりをみんなでしました。紙を折って切って模様をつくり、それを羽子板にはってローラーを上にごろがしその模様を羽子板に写し

たのです。

このように子どもの自由場面での様子をよくみることで保育する上で重要なことは、この例でもわかります。

私は子どもが自由な場面で発見したことをクラスみんなのものになるようにしています。教師が一方的に教えるのではなく、子どもが興味をもち、発見したことを友達同志伝え合っていくのです。このことは子どもをよくみつけることにはできません。

これからも子どもをよく知り、私自身も新しい発見をしながら、楽しく保育の仕事を続けたいと思っています。

(神奈川県・安部幼稚園)

